

○強行採決は、与党の弱さが原因

安倍政権は、どうして人気落ちてしまったのでしょうか。人は誰も窮地に陥ることがあります。リーダーの評価は、窮地に陥ったからダメだというより、それをどのように受け止め、どのように対応したかが最終的には問われるのです。

松岡大臣の事務所費問題では、法律以上のものが問われたのだと思います。政治家としての道義を求めて情報開示の指示なり大臣の辞任などの決断をする安倍総理のリーダーシップが必要だった。しかし総理は、法律には違反していないからと、松岡さんを擁護して閣内に留めたことで、判断を間違えました。政治家に対する不信をどのようにぬぐうのかという国民の疑問に、応える事が出来なかったのです。

その後、憲法の国民投票法案、イラクの自衛隊派遣延長法案、人材バンク(天下りバンク)法案、年金問題が出てきた社会保険庁解体法案など、重要法案は、すべて強行採決になりました。国民投票法案の強行採決は、安倍総理の参院選での憲法争点化の思惑を印象付けるための政治ショー。イラクの自衛隊は、アメリカとの同盟ではなく、ブッシュ大統領個人への義理立て。政府の言う「人材バンク」は、天下りを合法化して斡旋する組織であるとすれば、ザル法もいところ。年金問題に至っては、追及すればまだ隠している問題が際限なく出てくる可能性がある。等々、議論をすれば、それだけの争点は浮かび上がりそのことに対する対応が問われます。しかし、今回の国会では、与党は、中身が行き詰まって苦しくなると強行採決です。実際、年金問題などは、野党から追及される前に、政府自ら情報開示を潔くやって、開かれた情報の上に必要な危機対応をすることが大切だったのだと思います。「ここであまり騒ぐと、国民を不安に陥れるから。」といったような国会答弁で逃げた安倍総理や柳沢大臣の対応は、間違っていたのだと思います。安倍政権は、中身に自信がないから、強権を発動し、大見得を張る姿がここに来て浮かび上がってきたようで、とても不安を感じています。

○アメリカがおかしい

アメリカでもブッシュ大統領の支持率が28%まで下がっています。米国民がブッシュの独りよがりの思い込みを嫌いはじめたのと同時に、世界政治では、アメリカの威信が崩れています。イラクや中東地域での失敗が世界の反米勢力を勢いづける結果となっている事、中国・ロシアを中心にした非米新勢力の結集が始まり、アメリカの覇権が大きく後退している現状があります。

一方で、世界経済はアメリカの支配が益々力を発揮しています。中国、中東そして日本の余剰資金は、アメリカのブラック・ストーン、KKR、アポロなどのプライベートエクイティ(買収ファンド)に集り、秃鷹ファンドなどと擲擧される企業買収の嵐が吹き荒れています。特に、金利の低い日本から持ち出された資金で活動するファンドに、日本の企業がねらわれるという構図は、おかしい。

アメリカをどう見るか、考える時です。問題を整理して日本の立ち位置を決める時です。

○参議院選挙は終盤戦

参議院の選挙対応に追われています。先週、津市で3千人の集会をもって、高橋千秋さんを励ました。いま、本人は、50人前後のミニ集会を開いて精力的に有権者の皆さんとの直接対話を広げています。彼の持ち味は、現場主義。どこにでも飛び込んでいって気軽に話し込み、生活の課題を受け止めます。そうした活動から、民主党の所得の直接保障を中心とする農業政策が生まれました。また、政府によって無理やり導入された障害者自立支援法に対して、コストの応能負担は、所得の限られた重度の障害者を中心に大きな経済的困難をもたらすと、正しい指摘をし続け、見直しの方向に漕ぎ着けたのも高橋さんです。本人が2区に入って来た時には、できる限りの集会を持ちたいと思っています。ぜひ、ご参加ください。

国会の延長と参議院選挙の29日投票日が正式に決まってしまいました。選挙では、「民主党なら今の日本をこのようにする。」と、前向きな政策をうたえていこうと、張り切っています。